

B—7 女子学生の色彩嗜好性に関する調査

愛知淑徳短大 ○柿原 朋子
小林 毬子
今井 和子

1. 女子学生においては嗜好色と着たい色とが大体一致する結果を前の調査で得たので、被服の色彩に関する指導を効果的にするため、単独色および2色配色における嗜好性に関する調査を行なった。またそれ等と性格との関連性について検討し、色彩指導上の資料にしたいと考えた。

2. 昭和39年11月および40年6月に、照度200~250 LXのもとで、本学家政科学生の眼に疾患のない者345名を対象として行なった。明度17の灰色紙上に色研標準色98色の3糎角資料を色環状に貼布し、嗜好色、嫌悪色、嗜好配色、嫌悪配色を選ばせ（配色には同様資料を別に用意し、自由操作によった）、これ等を三属性にわけて集計を行なった。また内93名について、日常の学習行動

の観察，面接による学生の自己診断および矢田部ギルフォード性格検査によって得た性格診断のうち，情緒安定性，社会適応性，衝動性，主動性との関連について検討した。

3. (1) 配色において有彩色と無彩色との組合せ方および明度，彩度，色相の關係に好嫌の傾向がみられた。

(2) 性格との關係については，嗜好色では O, YO, Y系でいずれの性格にも特徴がみられ，彩度明度は主動性にのみ傾向が認められた。配色においては情緒安定性，衝動性に明度差，彩度差，色相差共傾向があらわれた。